

車両動線

センター課題の注意書きでは、「車両動線(車回し、車寄せ等)に考慮した外部空間の計画」が事前に公表された。

車両動線は、配置図に記載となる。

ここで、求められるのは、車回し、車寄せ、駐車場の計画である。それぞれの出題予測を下記に示すが、研究会としては、結論としてH27の課題「市街地に建つディサービス付き高齢者向け集合住宅」の標準解答例が参考になるものとする(下図参照)。つまり、本計画の車回しは、道路から一方通行での車の入口、出口を設けて、建物の出入口前に車寄せを設けることである。更に、その両サイドに駐車場を設けることとなる。

(1) 車回し

一般的に「車回し」とは、自動車が回転できるロータリーを敷地内に設けるとなる。

ただし、小規模のリゾートホテルと作図面積、特に配置図が1/200指定であることから、敷地はそれほど大きくはないと推定できる。従って、回転ロータリーまでの計画となりがたいとなる。その結果、車両動線は、道路に対して、一方通行とした、安全で円滑な動線計画となる。この一方通行の動線は、H27の標準解答例で示されている。従って、車回しは、この一方通行の動線で良いと推定する。

(2) 車寄せ

車寄せは、建物の出入口前となる。

この場合、上記車回しとの関係から、やはりH27の標準解答例が参考となる。この解答例では、下記2種類が示された。

・H27標準解答例①:ピロティを活用した車寄せ

・H27標準解答例②:上部庇の車寄せ

この上部庇の車寄せでは、独立させたキャノピーを設けてもよい。いずれにしても、乗降する利用者への配慮から、雨避け対策が必要となる。

(3) 駐車場

駐車場は、一方通行の車両動線(車回し)と車寄せとなるプランから、おのずとその両サイドが駐車場となる。これも基本的には、H27の標準解答例の通りでよい。車椅子利用者用駐車場(3.5×5m)をできる限り建物の出入口に近い位置として、車両動線と歩行者動線を交錯させない計画とする。また、ここにサービス用駐車場がある場合、可能限りサービス用駐車場と利用者用駐車場(車椅子利用者用駐車場含む)との動線交差もしないことが望ましい。

